

令和5年度（4月現在）

揖斐農林事務所の概要

～農業農村整備事業～



中山間総合 集落防災施設



田んぼの学校



ため池の耐震・豪雨対策



農道施設強化 農道舗装

～農業振興・普及事業～



新規就農者研修開始式



柿スマート機械実演会



いちご現地研修会



JAいび川大野果実共同選果場

～治山・林道事業～



揖斐川町瑞岩寺足打谷 山腹工



池田町藤代鎌ヶ谷 溪間工



治山事業PR (谷汲小学校)



林道 春日・久瀬線

～林業振興・山村地域振興～



森林整備事業 (木材生産)



森林整備事業 (植栽)



企業の森づくり活動(OKB)



緑と水の子ども会議(揖斐小)

コロナ
感染防止!!



清流の国ぎふ憲章

～豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国～

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知 清流がもたらした自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創 ふるさとの宝ものを磨き活かし、新たな創造と発信に努めます

伝 清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成26年1月31日 「清流の国ぎふ」づくり推進県会議

〒 501-0603 岐阜県揖斐郡揖斐川町上南方1番地の1 揖斐総合庁舎 3階

TEL (0585) 23-1111

FAX (0585) 22-6725

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/ken-gaiyo/soshiki-annai/nosei/norin-jimusho/ibi/>

1 管内の概要

(1) 自然と地理

揖斐農林事務所管内は、県の最西部に位置し、揖斐川町(平成17年1月、1町5村が合併)・大野町・池田町の揖斐郡3町により構成されています。

北は福井県、西は滋賀県と接しており、県境には最高峰の能郷白山(1,617m)を筆頭に標高1,200m級の山々がそびえています。また、濃尾平野の北西端にあたる管内南東部は、揖斐川や支流の粕川、根尾川等により形成された扇状地に耕地や市街地が広がっています。

気象は、日平均気温15.5℃、年間降水量2,518mmで、日本一の総貯水容量6億6千万m³を誇る徳山ダムが建設されるなど、重要な水源地域となっています。

(気象庁データ〔揖斐川〕1991年～2020年の平年値)

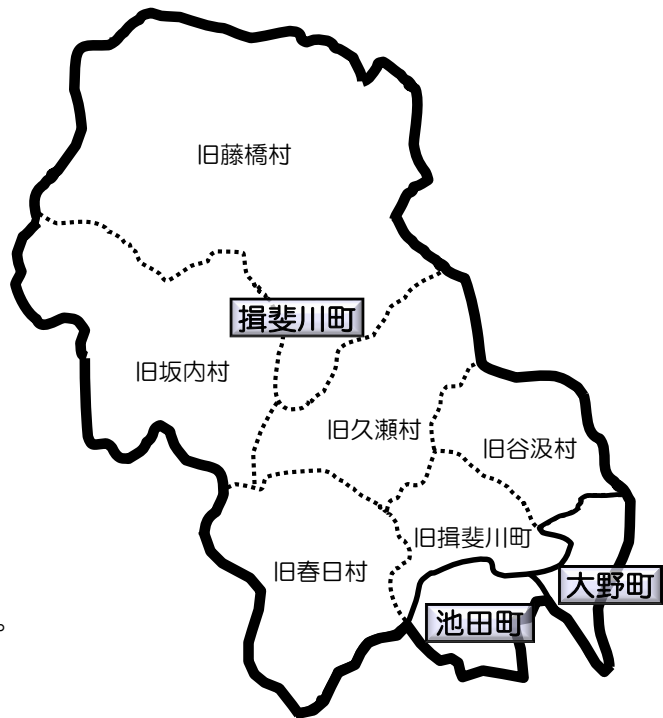
土地は、東西約35km、南北約45km、総面積は87,644haで、県土面積の8.3%を占めています。

管内の耕地面積は3,339haで総面積の4.4%を占め、うち水田は3,028ha(78.9%)、畑は811ha(21.1%)となっています。

(農林水産省 R4耕地面積調査)

管内の森林面積は75,550haで総面積の86.2%を占め、うち民有林は69,984haで森林面積の92.6%を占めています。

(令和3年度岐阜県森林・林業統計書〔R5.3発刊〕)



(2) 社会情勢、農林業の概況

管内の人口は、62,672人(県人口動態統計調査〔R5.1.1現在〕、前年比1.4%減)で、県内人口の3.2%を占めています。

管内の基幹道路としては、国道303号が、大野町から旧揖斐川町を経て旧坂内村から滋賀県長浜市に、国道417号が、池田町から旧揖斐川町に入り、旧藤橋村から福井県今立郡池田町へと通じています。現在、福井県境の難所を解消するため、冠山峠道路の建設が令和5年度の完成に向け進められています。さらに、東海環状自動車道の整備も進んでおり、令和6年度には山県IC～大野神戸IC間が開通する予定です。

①管内農業の概況

管内の農家戸数は、2,405戸で総世帯数の11%を占め、うち販売農家は1,194戸(50%)となっています。(2020年農林業センサス)。認定農業者は165人、認定就農者は12人、農業生産集団・農業法人等は91組織あり、熱心に営農活動を行っています(R5年3月現在)。特に、平坦地域における農業は、水稲と麦・大豆等の転作作物を組み合わせた水田フル活用の推進に加え、「美濃いび茶」、「柿」、「バラ苗」産地等のブランド化や、農業経営の改善を図るための生産振興や生産技術の向上等が進められています。

一方、中山間地域では、その特性を生かした「沢あざみ」等の特産野菜・「小菊」等の花き生産が行われています。近年では、「とうがらし」や「金ごま」等の新たな特産品づくり、ジビエ加工などの取り組みが進められています。また、畜産は、酪農・肉用牛・養豚・養鶏等の専門的経営が営まれています。

②管内林業の概況

管内の森林面積に占める民有林の割合は、93%(69,984ha)で、県平均の79%(684,678ha)に比べて、14ポイント高く、一方、民有林人工林は21,439ha、人工林率31%で、県平均の45%に比べて14ポイント低いのが特徴です。

人工林は、森林公社等の機関造林によるものが半数を占めており、昭和30年代～50年代の組織的な拡大造林により、スギ・ヒノキの植林が進み、林齢31～60年の林が、人工林の72%を占めています。

(令和3年度岐阜県森林・林業統計書〔R5.3発刊〕)

このような中で、森林資源の成熟に伴う利用間伐の推進や、主伐・再造林による木材利用の推進と林齢の平準化が、喫緊の課題となっています。このため、森林経営計画の作成など、長期的な視点で指導できる人材や、木材生産技術者の育成が進められています。

また、県産材の需要拡大を図るため、公共工事での間伐材の使用に努める他、大型建築施設の木造化に対する支援では、令和3年度に大スパン空間の木造建築が可能であるATAハイブリット工法を採用した「豚舎」が建設されました。さらに、管内森林面積の大部分を占める揖斐川町では「バイオマスタウン構想」を策定し、地産地消型の木質バイオマスエネルギーの活用に取り組んでいます。平成27年10月11日には、揖斐川町谷汲において第39回全国育樹祭が開催され、お手入れ行事としては全国で初めて皇室自らが「間伐」を行なうなど、「世代をつないだ森林づくり」への取り組みが全国へ発信されました。

